

## 国際化学肥料ニュース（2023年8月）

### 肥料業界の2023年8月動態

- \* エジプト化学品と化学肥料輸出委員会（CEC）の Khaled Abu El-Makarem 会長は、2023年エジプト農業展示会に於いて、2023年エジプト化学肥料輸出量が前年より25～30%増やすという目標を立てていると述べた。  
2022年エジプトの化学肥料輸出額は約34億ドル、2021年の23億ドルより大幅増加し、世界の化学肥料輸出国では第7位に躍進した。ブラジル、トルコとインドは主な輸先である。また、ロシアのウクライナ侵攻により、エジプトはロシアに代わって、EUへの化学肥料の輸出増を目指している。
- \* 8月9日、インド IPL 社の尿素国際入札が開札された。23社応札、応札数量は東海岸163万トン、西海岸175万トン。尿遅の国際価格の高騰を反映して、最低応札価格は CFR 東海岸396ドル/トン、西海岸399ドル/トン、6月12日に開札された前回の尿素国際入札に比べ、110～120ドルも上がってきた。
- \* 7月25日に発表されたインド IPL 社の新しい尿素国際入札を受け、8月第1週（7月31日～8月6日）の尿素国際相場が急騰し、輸出国は軒並みに FOB400ドル台に乗せた。特に需要の多い大粒尿素は中東と北アフリカでは FOB450ドルを超えた。7月第1週に比べ、1ヶ月だけで120～160ドルも高くなっている。
- \* サウジアラビアの Maaden 社はバングラデシュ農業開発公社（BADC）に年間60万トン DAP を供給する契約を更新した。その数量はバングラデシュの DAP 消費量の約42%を占める。
- \* ブラジルのペトロブラスは Araucária 州にある Araucária Nitrogenados (ANSA) 工場の再稼働に向けた検討を最終段階に入っていると発表した。当該工場は2020年から稼働が停止されているが、投資と環境規制の基準を満たすため、2024年前半に再稼働する可能性があるという。Araucária Nitrogenados 工場の生産能力はアンモニア1300トン/日と尿素1900トン/日で、原料は近所にある Presidente Getúlio Vargas Refinery 製油所から出てきた石油精製の副産物である。
- \* インド側はロシアの Uralkali 社との間に2023年度下期の塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR 価格319ドル/トンで、現在実施している2023年度上期の塩化加里輸入基本契約（CFR422ドル/トン）より103ドルも下げた。

- \* 6週間の上昇を経て、8月第2週（7～13日）の尿素国際相場が下がった。前週よりロシア品の FOB 価格が 15～40 ドル、中東大粒品の FOB 価格が 23～56 ドル、CFR ブラジルの価格が 10～25 ドル下がった。その原因はインドの国際尿素入札の応札価格が予測より安い（予測では CFR400 ドル/トンを超えるが、実際に 396～399 ドル/トン）ほか、ブラジル、アメリカ、EU など主要輸入先が尿素の高値を忌避して、様子見の態度を取る貿易商が増え、大きな商談が止まった。
  
- \* インド IPL 社の尿素国際入札の購買数量が判明した。契約数量 175.94 万トン、そのうち中国品 112 万トン、9月26日まで船積みという条件である。中国尿素が 100 万トンを超えたのは 2021 年 9 月以来のことであるが、9月26日までに中国政府の「法定検査」をパスできるかは問題である。
  
- \* 中国税関の速報によれば、2023 年 7 月中国化学肥料輸出量が 43.3%増の 278 万トン、その内訳は尿素 32 万トン、硫安 111 万トン、DAP51 万トン、MAP20 万トン。  
 一方、7月の中国化学肥料輸入量が 52%増の 114 万トン、その内訳は塩化加里 100 万トン、NPK 化成肥料 14 万トン。
  
- \* インドネシアの Pupuk Indonesia 社が行った塩化加里の国際入札にベラルーシの BPC 社が落札した。ベラルーシへの経済制裁の影響で、BPC 社が安売りして、落札数量 7.5 万トン（3 船）、落札価格 CFR306 ドル/トン。
  
- \* 8月第3週（14～21日）の尿素国際相場は 2 週連続下落した。特にエジプト産大粒尿素の FOB 価格が先週より 60～70 ドルも安くなり、390～400 ドル/トンに逆戻った。黒海とバルト海の FOB 価格も 350 ドル台に戻った。主な理由は国際尿素市場がインド IPL 社の尿素国際入札を期待して、7月中旬から大幅に値上げしたが、開札の結果、中国産尿素が購入数量の 60%以上を占めることで、中東と北アフリカ産尿素は期待外れとなったからである。また、マレーシアとブルネイの尿素生産ラインの稼働が正常に回復し、ロシアの尿素工場のメンテナンスも終了したことで、国際市場の尿素が再び過剰局面に突入する。
  
- \* 8月第4週（21～27日）の尿素国際相場が 3 週連続下落した。そのうちロシア産尿素の FOB 黒海とバルト海価格が 15～40 ドル、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 30～35 ドル、アルジェリア産大粒尿素の FOB 価格が 60～85 ドルも下がった。ただし、中東と東南アジア、中国産尿素の下げ幅が小さい。  
 尿素相場が弱くなった理由はインド IPL 社の尿素国際入札に契約した尿素の 60%が中国産のもので、北アフリカとロシアが用意した品物が大量に在庫して、捌くには値下

げしかない。東南アジアとナイジェリアの尿素工場がすでにトトラブルから回復して、順調に稼働している。また、EUの天然ガス価格が大幅に下げて、8月中旬以降だけで約25%も安くなったので、EUのアンモニアや硝安、尿素の生産コストが大幅に下がると予想され、バイヤーが北アフリカ産尿素の購入を躊躇している。

- \* 8月30日、ロシア総理 Mikhail Mishustin は一部の化学肥料に対して輸出関税を徴収する法令にサインし、8月31日にロシア政府のHPに公開した。9月1日から一部の窒素肥料、加里肥料、りん酸肥料と複合肥料にそれぞれ1100ルーブル/トン、1800ルーブル/トン、2100ルーブル/トンの輸出関税を徴収する。但し、養液栽培にも使える完全水溶性のMAP（りん酸一アンモニウム）とDAP（りん酸二アンモニウム）は工業用化学品扱いで、輸出関税を徴収しない。

ロシアの財務省が8月初めに作成した案にはすべての肥料に対して8%の輸出関税を徴収すると書いているが、輸出の支障となる異論があり、最終的に上記の法令に妥協した。ロシアは2022年までに化学肥料の輸出関税がなかったが、2023年1月から輸出価格が450ドル/トンを超えた化学肥料に対して、450ドルを超えた分に23.5%の輸出関税を徴収する。しかし、財務省の予測では年間1190億ルーブルの関税収入があるが、1～6月の関税徴収額がただの60億ルーブルで、目論見から大きく外された。

### 大手各社の営業業績

- \* 中国 No.2 のりん酸肥料メーカー雲天化が2023年上半期の業績を公表した。化学肥料生産量が2.9%増の438万トン、販売量が10.9%増の429.78万トン。ただし、販売価格の下落により、売上高352.19億人民元（約49億ドル）、純利益26.78億人民元（約3.73億ドル）、共に前年同期より下がっている。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* オーストラリアのMinbos Resources社はアフリカのアンゴラMalanje州にあるCapandaダム近所にCapandaグリーンアンモニアプロジェクトを立ち上げると発表した。

Capandaダムは、アンゴラのMalanje州クワンザ川にある超大型水力発電ダムである。発電能力520MW、年間発電量はアンゴラの全国電力の半分以上を占め、国内最大の水力発電複合施設である。Minbos Resources社のCapandaグリーンアンモニアプロジェクトはCapandaダムの電力を使って、年間11.2万グリーンアンモニアを生産し、それを原料にして25.5万トン硝安を生産する予定である。

- \* ポランドのAzoty Group SA社はTarnów工場の硝安プラントをグレートアップすることを決めた。肥料製造プロセスのエネルギー消費量を年間250,000GJ以上に削減す

ることで生産効率が向上し、生産コストを大幅に引き下げる目的である。グレートアップ後の硝安プラントは1日1500トン硝安を生産することになる。ドイツのティッセンクルップ・ウーデ社が設備と関連施設の設計を担当し、2024年の第1四半期後半から第2四半期前半に建設が開始され、2025年の第4四半期に完成する予定である。

## その他

- \* 8月3日、カナダのNutrien社はアメリカルイジアナ州に計画されているブルーアンモニアプロジェクトを再検討することを発表した。当該ブルーアンモニアプロジェクトは2022年5月に発表し、2024年に建設開始、2027年に完成と稼働し、投資額約20億ドル、年間最大120万トンブルーアンモニアを生産する計画である。しかし、建設コストの増加とNutrien社の業績不振の影響で、再検討の必要があるといわれる。
  
- \* アフリカコンゴ共和国のKore Potash社はコンゴ政府鉱山省から現在開発中のKola加里鉱山にさらなる支援を用意する書簡を受け取ったと発表した。
  
- \* ロシアからの消息によれば、ロシアUralChem社は政府に化学肥料輸出専門商社を作って、ロシアの化学肥料輸出を一括に管理することを提案した。その目的は不当競争を減らして、ロシア産化学肥料の輸出数量と価格を適切に管理するほか、非友好国への輸出を規制するなどである。ロシア政府の総理と工業貿易省大臣がこの提案について検討したが、結論が出ていないようである。